

2010年1月1日～2020年12月31日の間に 当科において閉鎖孔ヘルニアと診断され、手術を行った方及びご家族の方へ

—「閉鎖孔ヘルニア陥頓に対する非観血的整復法後に待機的に手術を行った9例と緊急手術した16例の比較」へのご協力をお願い—

本研究の内容は、研究に参加される方の権利を守るため、研究を実施することの適否について川崎医科大学・同附属病院倫理委員会にて審査され、既に審議を受け、承認を得ています。また、学長と病院長の許可を得ています。

研究責任者 川崎医科大学附属病院消化器外科
研究分担者 消化器外科学

シニアレジデント	峯田 修明
教授	上野 富雄
特任教授	藤原 由規
特任教授	吉松 和彦
特任准教授	遠藤 俊治
講師	岡田 敏正
講師	東田 正陽
講師	窪田 寿子
講師	田中 宏典

1. 研究の概要

閉鎖孔ヘルニア陥頓は高齢女性に多く、緊急手術を行うことが多いですが、高齢者に対する緊急手術は合併症発症のリスクが高いとされています。そのため、近年では非観血的整復後に待機的な手術を行った報告が増加しています。当院で経験した非観血的整復法後に待機的に手術を行った症例と緊急手術した症例について比較し、非観血的整復法後に待機的に手術することによる有用性について研究します。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

2010年1月1日～2020年12月31日の間に川崎医科大学附属病院消化器外科において閉鎖孔ヘルニアと診断され手術を行った方を研究対象とします。

2) 研究期間

倫理委員会承認日～2022年3月31日

3) 研究方法

2010年1月1日～2020年12月31日の間に当院において閉鎖孔ヘルニアと診断され、手術を行った方を、研究者が診療情報をもとに、非観血的整復法後に緊急手術を行った症例と待機的に手術を行った症例と比較して、待機的に手術を行った症例の有用性について調べます。

4) 使用する情報の種類

情報：年齢、性別、家族歴、病歴、治療歴、副作用等の発生状況

5) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または論文等の発表から5年間、川崎医科大学消化器外科学実験室内でパスワード等で制御されたコンピューターに保存します。

6) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

また、この研究における個人情報の開示は、あなたが希望される場合にのみ行います。あなたの同意により、ご家族等（父母（親権者）、配偶者、成人の子又は兄弟姉妹等、後見人、保佐人）を交えてお知らせすることもできます。内容についてわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2021年12月31日までの間に、下記の連絡先までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者さんに不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

川崎医科大学附属病院 消化器外科

氏名：峯田 修明

電話：086-462-1111 内線 26503（平日：9時00分～17時00分）

E-mail：mineta.0427@med.kawasaki-m.ac.jp

3. 資金と利益相反

この研究において、資金の受入及び使用はありません。本研究に関する利益相反の有無および内容について、川崎医科大学利益相反委員会に申告し、適正に管理されています。